

令和7年5月30日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 高 橋 善 貞

研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 文教厚生常任委員会道外視察
- 2 視察先 香川県宇多津町 南部すくすくスクエア
- 3 視察日 令和7年5月13日（火）
- 4 視察事項 南部すくすくスクエアの取組・放課後児童支援・ファミリーサポートセンターについて
- 5 成果（具体的に）

視察研修初日に訪問した香川県宇多津町は、都道府県で面積が最小の香川県 1,877K m²（中標津町 684.9K m²＋別海町 1,319.6K m²＝2,004.5K m²）の中でも 8.10K m²の香川県最小の町です。東側に隣接する坂出市と西側の丸亀市に挟まれ両市の中心部に近いのですが「平成の大合併」による合併は行いませんでした。

訪問した「南部すくすくスクエア」は子育て支援施設が北部に集中していることから、2022年（令和4年）に宇多津町で建設し、運営はNPO法人が行っています。

視察研修の対応は、議会議長・議員・議会事務局・保健福祉課・教育委員会・社会福祉協議会が出席し各担当部局との関わりを説明していただきました。

廃校や廃止した公共施設の再利用と違い、建設前から庁舎内の横断的な連携により、共通の課題に対応できる理想の施設建設となったことが大きな成果と感じました。

訪問時に驚いたのは入口部に大きく張り出した庇（ひさし）で、軽作業やオープンカフェが雨天でも可能で、その前面には町長提案の「人工芝」が張られ天気の良い日は子供も親も芝生に寝転がれる



利用者の「たまり」になっている人工芝

「たまり」になっているそうです。

出席していただいた宮本議長は「町長のフットワークが良くて県庁や各省庁に資金援助などの相談に行くが、その後に職員が実施に向けての作業が大変で、一番苦勞しているのは職員です。」と言い切ったのには感銘を受けました。

歴史ある「塩田」が廃止され広大な未利用地を、都市計画区画整理事業により街路・公園・宅地開発・上下水道が整備されたことにより周辺地域から盛んに移住する 20 代～30 代の住民が増加し、現在は四国でも有数の人口増の自治体に成長しています。

公立病院が無く高校は隣接する丸亀市・坂出市に通学するなど、他の自治体と違う面もありますが、香川県の道路舗装率は 99.9% (R3・4) で予算に占める「土木費」が非常に少ないのが特徴です。

子育てするなら宇多津町と言うとおり、所得制限無しで結婚～妊娠～出産～産後ケア～子育て、までの支援・助成は充実しており、全てをこの報告書で紹介するのは困難ですが、移住者も認める手厚い行政サービスが印象的でした。

「少子高齢化」は全国的な課題で、どの自治体もその取り組みを行っていますが、その中で、より安全に、より安心して子育てできる町として宇多津町は多方面にわたる補助制度や施設があります。

「日本で一番住みやすいまち」を目指している宇多津町の姿勢に対し、現状から抜け出せず、新たな発想が無い中標津町の目指す「住みやすさ NO1 のまち」には大きな温度差を感じました。

- 2 視察先 愛媛県四国中央市 子ども若者発達支援センター「palette」
- 3 視察日 令和 7 年 5 月 13 日（火）
- 4 視察事項 子ども若者発達支援センターについて
- 5 成果（具体的に）

2004 年（平成 16 年）4 月に 2 市 1 町 1 村（伊予三島市・川之江市・土居町・新宮村）が平成の大合併により四国中央市が誕生しました。

「大王製紙」が本社を置き製紙工場が立ち並ぶ瀬戸内海工業地帯では「日本一の紙のまち」で、愛媛県を含み四国 4 県に接する都市です。視察研修の場所設定時に事前配布された「四国中央市子ども若者未来応援計画」の「パレット・プラン～尊重しあう共生社会をめざして」の内容を事前に確認し、「子ども若者発達支援センター（パレット）」を訪問しました。

この施設は 2017 年（平成 29 年）に開設しましたが、2010 年（平成 22 年）に施行された「子ども・若者育成支援推進法」と従来の「児童福祉法」による「相談・療育・地域支援」を目的とした「子ども・若者総合相談」「児童発達支援」「保育所等訪問支援」「放課

後等デイサービス」を行う3階建ての半円型施設で、個別・小集団の指導相談がプライバシーに配慮された部屋割りで運営されています。

この施設も関係者間で基本構想から協議してきた結果として、機能性・効率性・安全性が保たれており内装は白を基本として非常に明るいのが印象的でした。

中標津町のような老朽化した公共施設を使用して、照明のLED化やエアコンの設置予定も無い暗いイメージの「教育相談センター」と比較はしたくないのですが、本当に利用者のことを考えているのか疑問を感じますし、その場しのぎでは無く目的に合った建物の必要性を改めて感じました。

パレット到着時には気温が高かった事もあり製紙工場特有の独特の臭気（紙パルプ漂白に使う苛性ソーダの臭い）が漂い、松村副議長が中標津町の酪農地帯で問題としている家畜糞尿臭気について挨拶で触れましたが、この臭気は一年を通じてであり、別の機会に「臭気対策」をテーマに視察研修を行うことも重要と思いました。



- 2 視察先 愛媛県四国中央市 四国中央市役所
- 3 視察日 令和7年5月14日（水）
- 4 視察事項 ICT教育について
- 5 成果（具体的に）

訪問して冒頭に「2019年（令和元年）GIGAスクール構想の時点でITC教育の方向性をすでに決めていた」と衝撃的な話から座学がスタートしました。教育委員会学校政策課長の鈴木崇士さんの「GIGAしこちゅう〜の経過と現状」「今後のネクストGIGA方針（2期目）」について、ICT教育最先端の四国中央市と中標津町のあまりにも大きなギャップにただ唖然として聞いていました。

当初からタブレット（中標津町）では無く、chromeBookの購入を決めていたのは、プログラミングに必要なタイピング、社会に出てからのキーボードに抵抗感を無くすためとの事で、タッチパネルのみに依存しない将来を見越した考えでした。

残念ながら道教委や道内市町村は、安倍元首相がGIGAスクール構想を発表してからド

タバタで「一人一台端末」が先行し、基本的な構想よりも補助金の確保が優先し根室管内の教員・生徒・保護者への理解が後手に回ってしまいました。

四国中央市では、いち早く導入した「**LoiLo**」によるロイロノート・スクール（教職員と児童生徒が共に学習）は、2024年8月には、全国の導入校1万3千校で一日の利用者が260万人を突破しています。

また Google からの講師、文科省からのアドバイザー、徳島大学との連携などのほか民間企業からの寄付金による電子図書館事業など、産官学連携は GIGA スクールの運営に大きく寄与しています。

中標津町も本年度から2期目の GIGA スクール「ネクスト GIGA」に向けて耐用年数が経過する現在のタブレット端末から chromeBook に移行するので、四国中央市が実施している家庭の WI-FI 機器整備への補助金等を検討していく必要があると感じました。

今後の ICT 教育を進めるうえで、将来的に後戻りすることなく中標津町としての基本構想をしっかり持つ事と、ICT の先端教育をいち早く文科省・道教育局から情報を得て、地元企業に依存せず全国的に展開している最新技術を持った企業との連携・運営にシフトしていくことが、四国中央市と比較して



遅れ気味の中標津町 GIGA スクールに一番必要なことと思います。

また、教員が根室教育局管内を異動しても影響が無い、ある程度管内統一された環境で教員のレベルを高めていけるような ICT 教育を推進できるように今後も注視していきたいと思っています。

- 2 視察先 香川県三豊市 バイオマス資源化センターみとよ
- 3 視察日 令和7年5月14日（水）
- 4 視察事項 バイオマス資源化センターみとよについて
- 5 成果（具体的に）

2年前（令和5年度）の厚生常任委員会道外視察研修で候補にあがりましたが、全国から視察申し込みが殺到し受け入れが困難な状況で断念しましたが、今回は視察ピークも収まり快く視察を受け入れてくれました。

全国的に生ごみの「堆肥化施設」はありますが、「燃料化施設」は三豊市の**エコマ**スターが運営する「バイオマス資源化センターみとよ」のみです。

過去から中標津町の財政負担が大きくなっている根室北部廃棄物処理広域連合の「燃えるゴミ」搬入量の削減について、老朽化した広域連合のゴミ焼却場改修事業と併せて構

成する4町（別海・標津・羅臼・中標津）で、搬入量が最も多い中標津町4億5千万円の負担金削減を図るための「ゴミの減量化」を進める方法として検討いたします。

三豊市長が「ゴミはすべて資源！」と言って、燃やさない・臭わない・汚水を発生させない、トンネルコンポスト方式による固形燃料化に至るまで、町民・議会・周辺自治体から相当な批判があったと聞きましたが、結果的に平成29年4月に行政主導で民設民営による稼働に導いたのは行政トップの決断力がとても大きいと感じました。

この施設の処理能力は43.3t／日で、中標津町の年間ゴミ焼却処理量が約6千トンであり単純計算では16.4t／日程度になり視察した施設の半分くらいの規模でも十分可能かと思われます。

削減されるのは別海町ゴミ焼却施設の石油燃料、別海町処分場までの運搬費などが主な削減経費ですが、町民に対して「紙おむつ」の燃料化や基本的なゴミの分別をこの事業を期に改めて喚起できることが重要と思います。

大きな問題はごみを原料に生産された「固形燃料」の使い道で、最近塩化ビニールに対応したボイラーも生産されているようですが、農業施設・各種工場の熱源として、公共施設の暖房等に使用可能です。

設備投資は必要ですが中標津町が本気で「SDGs」「ゼロカーボン」「カーボンニュートラル」を主張しているかが試されると思います。

新規の施設整備は「環境型社会形成推進交付金」の対象となっているので、諸条件は環境省HPに掲載しています。

担当部局には早急に情報提供し、議会と共に研究していきたいと思います。



説明いただいた鎌倉さんと

- 2 視察先 兵庫県南あわじ市 松帆北認定こども園
幼老複合型ういずデイサービスセンター
- 3 視察日 令和7年5月15日（木）
- 4 視察事項 松帆北認定こども園（法人概要説明）
ういずディサービスセンター（施設見学）
- 5 成果（具体的に）

視察研修最終日は四国から鳴門海峡大橋を渡り、淡路島の南あわじ市松帆北認定こども園において「社会福祉法人みかり会」の谷村誠理事長から法人概要とあわせて経営理念・事業理念の説明がありました。

特に「子どもと、高齢者と、障がい者」相互のかかわりと、これら三者による共生社会

の必要性・重要性については改めて考えさせられました。

自分自身幼いころから高齢者と暮らしたことがなかったので、私が 50 代後半に突然母が入院し父と同居した時「意思の疎通ができない」「同じ話を繰り返す」「自己中心的な考え」等、半年間暮らして家庭崩壊の一步手前のところで姉に救われました。

まだ農家が多い南あわじ市や中標津町の酪農家庭では家庭に高齢者がいて高齢者の役割分担のひとつに幼児（孫）への躾や社会教育（生きていく上での）が当たり前であり、現在のように核家族化が進むにつれて高齢者と幼児の共生が薄れてきて認知症の高齢者は疎外されてしまいます。

幼老共生のデイサービスがすべて解決するわけではないのですが、沢山ある昔からの幼老共生生活の良いところを少しでも継承していくためにも重要な取り組みと思いました。

民設民営による施設なので、プライバシー侵害以外は規制が緩く幼老複合型の介護施設兼認定こども園の日常を見せていただきました。

視察に伺った時には幼児 3 人が高齢者の膝に居て、みんな仲良く童謡を歌っており 100 歳を超える女性は「わざわざ遠い北海道から御苦勞様」と、しっかりした口調でお話しされ、高齢者の男性は「北海道に親戚がいる」と言い「どこに」と聞かれても「わからない」と言っておりました。

食堂・厨房・保育ルーム等が効率よく配置され、施設の仕切り壁や備品についても安全に配慮された造りになってます。

職員の熱心な説明を聞いていると、本当に幼児、高齢者、子ども、障害者、家族、地域、職員が多様なふれ合いの中で「居場所づくり」「出番づくり」を支援していることが伝わってきます。

民設民営ですが法人の保育士・介護士の離職率は非常に低く 10 年以上勤務している職員が多いそうで、結婚育児が一段落した職員が復職できるのは職員が真剣に「幼老共生の必要性」を認識しているからと感じました。

「幼老共生型デイサービス」の子ども達が成長しても、この施設で一緒に過ごした「コマ回し名人」「竹とんぼ名人」「虫取り名人」などの高齢者の事は忘れないと思いました。



説明いただいた中尾さん（右端）と谷村さん（左端）と